

令和5年度 宮崎公立大学 帰国生選抜 小論文課題

設問：以下の文章を読んで、グローバル社会において人類が直面する問題を踏まえ、本学で学ぼうとする専攻【言語・文化／メディア・コミュニケーション／国際政治経済】と結び付けつつ、持続可能な社会の在り方について、あなたの考えを述べて下さい。（600字程度）

ロシアのウクライナ侵攻で小麦の輸出ができなくなり、アフリカ諸国が深刻な食糧危機に直面している。冷涼な気候に適した小麦は熱帯アフリカでは栽培できない。

しかし、今やどこの国でもパンは人々の主食になっている。私がゴリラの調査をしていたガボン共和国でも、かつてパンの値上がりを機に大規模なデモが起きた。

パンへの高い依存度は植民地時代につくられたものだ。それがバナナやキャッサバなどの伝統的な主食をしのぎ、人々の日常に欠かせない食品となったためにこのような事態に陥ったのだ。

危機の原因は、グローバルな動きが加速して世界の市場が一元化し、分業体制が浸透したことにある。ガボンではほとんどの野菜を輸入に頼っていた。日本でも食料自給率は40%以下で、米以外の重要な食品は海外に頼っている。

さらにロシアを経済封鎖したために、石炭、石油、天然ガスなどのエネルギー資源が不足し、輸送費が値上がりして物価が急上昇している。既に新型コロナウイルスが原因で国境が閉鎖され、物資の供給が途絶えていたところに追い打ちをかけられている。もはやどの国も自国の生産力だけでは自立できなくなっているのだ。

これは近年、自然の流れに逆らって無理やり市場を拡大しすぎたせいではないだろうか。本来その土地の性格に合わない物を、湿地を埋め立てるなど環境を変えて大量に作り、世界市場に流通させることがグローバル経済によって加速した。

20世紀の初めに空気中の窒素と水素からアンモニアを作るハーバー・ボッシュ法が開発され、夢のような化学肥料が作られて農業生産が大幅に向上した。緑の革命と呼ばれるこの手法は世界各地に導入され、農産物の市場は一気に拡大した。土地は国有化され、熱帯雨林は伐採され、泥炭地は埋め立てられて現金作物が大量に栽培されるようになった。

アフリカではコーヒーや紅茶、アジアはアブラヤシのプランテーションが急増した。最近バイオエネルギーの資源となるトウモロコシの大規模生産が加速している。しかし、これらの価格は国際企業によって押さえられ、いくら生産しても現金収入は増えない。

しかも遺伝子組み換え作物の導入によって種子を保存できなくなり、化学肥料の大量投入によって地力(ちりよく)は落ち、種子や肥料を毎年のように購入しなければな

らなくなった。広大な土地があるのに、自分たちの食料は生産できず輸入に頼るとい
う皮肉な結果になってしまっている。

さらに、自然を改変して農地や牧草地に転換したことによって、それまで二酸化炭
素を吸収し固定していた自然の力が失われた。現在、野生動物の多様性が高い森林は
陸地の3割しか残っておらず、畑地と牧草地が4割に達している。それは今や陸上に
いる哺乳類のバイオマス（生物重量）の9割以上を占める人間と家畜を食べさせるた
めに存在する。

ところが、世界で生産される食物の3分の1が廃棄されているのに、飢えている
人々が約7億人もいる。明らかに生産過剰でありながら、食物が人々に平等に行き渡
っていないのである。

この悪循環を正すためには、市場原理によって物資を流通させるのではなく、自然
の流れに沿った生産と消費の関係をつくる必要がある。そして、温室効果ガス
の主役である二酸化炭素を削減できる資源や手法には、世界がその価値を認めて資金
を拠出する。

現在のように大手企業が食品の規格や価格を決めて情報を流し、各地のショッピン
グセンターで大規模に販売すれば、規格に合わない食品は捨てられ、期限切れの食品
が大量に残る。規格外の食品でも使う側にとっては問題ない場合が多い。消費者の注
文に応じて生産するようになれば、大量生産、大量廃棄は緩和される。物をなるべく
循環させる経済である「サーキュラーエコノミー」が必要な時代なのである。

山・森・里・川・海は大気や水の流れによって有機物や無機物が循環して生態系を
保持している。多様な生物がその循環の役割を担っている。食物もその自然の流れを
壊さないように循環させなければならない。食物は人間に生きる力を与えるととも
に、人と人、人と自然をつなぐ流れをつくるのである。

出典：山極寿一「食物が地球をつなぐ 自然の流れ 無視するな」『南日本新聞』
2022年7月18日「時論」